

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1学年A組～E組 理数科 1学年F組
教科書	7実教歴総704 歴史総合(実教出版)	副教材等	新詳歴史総合(浜島書店)

1 学習の到達目標

<p>①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
---

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	歴史の扉	歴史と私たち	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。</li> <li>○日本や世界の様々な地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>
			歴史の特質と資料		
	5	第1章 近代化への胎動	1 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○17世紀に成立した日本の江戸幕府と中国の清朝について考える。</li> <li>○江戸幕府が対外関係の場とした四つの口について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>
			2 江戸時代の生産・流通と諸改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>○江戸幕府の田沼意次と松平定信の2人の政策の違いについて考える。</li> <li>○商品経済の発達が江戸時代の経済にどのような影響を与えたのか考える。</li> </ul>	
			3 幕政の改革と東アジア世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>○江戸幕府が国内と国外に抱えた問題点(内患外憂)について考える。</li> <li>○清と朝鮮の対外関係について考える。</li> </ul>	
	6	第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	4 イギリスの産業革命とアメリカ独立戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は、どのようにはじまり、展開したのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>
			5 フランス革命とウィーン体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○フランス革命とウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化していったのか考える。</li> </ul>	
			6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	<ul style="list-style-type: none"> <li>○独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。</li> <li>○ラテンアメリカの独立について考える。</li> </ul>	
	7	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	7 オスマン帝国の衰退とロシア	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オスマン帝国の衰退過程について考える。</li> <li>○ロシアの改革とその問題点について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>
			第1回考査		
8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国			<ul style="list-style-type: none"> <li>○アヘン戦争とインド大反乱について考える。</li> <li>○日本の開国とその影響について考える。</li> </ul>		
8	第4章 帝国主義の時代	9 江戸幕府の滅亡	<ul style="list-style-type: none"> <li>○尊皇攘夷運動の高まった理由を考える。</li> <li>○幕末の薩摩藩・長州藩の動き、大政奉還と王政復古について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	
		10 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>○19世紀のイギリスとフランスの繁栄について考える。</li> <li>○19世紀後半にイタリアとドイツが統一した経緯や内容を考える。</li> </ul>		
		11 明治政府の諸改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明治維新の過程を考える。</li> <li>○明治新政府の政治を考える。</li> </ul>		
9	第4章 帝国主義の時代	12 日本のアジア外交と国境問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明治政府が清や朝鮮とどのような関係を築いてきたか考える。</li> <li>○日本の北方と南方の国境の問題や明治政府の台湾・琉球政策について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	
		13 自由民権運動と大日本帝国憲法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○明治政府の方針と自由民権運動との関係、政党の結成について考える。</li> <li>○日本での立憲国家の成立について考える。</li> </ul>		
		第2回考査			
9	第4章 帝国主義の時代	14 帝国主義の時代へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○帝国主義について考える。</li> <li>○アフリカと太平洋の分割について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>	
		15 朝鮮をめぐる国際関係と日露戦争	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の1880年代から90年代にかけての朝鮮半島進出について考える。</li> <li>○日清戦争の過程と台湾征服戦争について考える。</li> </ul>		
		16 日清戦争後の東アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日清戦争後の日本人の意識の変化について考える。</li> <li>○清をとりまく国際情勢や清の改革について考える。</li> </ul>		
		17 日露戦争と東アジアの動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日露戦争と日本の韓国侵略について考える。</li> <li>○辛亥革命とその影響を考える。</li> </ul>		
		18 日本の産業革命	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の産業の発展、都市と農村の社会問題、日本の社会運動について考える。</li> </ul>		

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	19 第一次世界大戦	○第一次世界大戦の全容とその影響について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・小テスト</li> <li>・定期考査</li> </ul>
			20 ロシア革命とソ連の成立	○ロシア革命の原因・経過とその影響について考える。	
			21 米騒動とデモクラシー	○第一次世界大戦が日本に与えた影響について考える。 ○日本の民衆が政治にどのような形で参加するようになったかを考える。	
	11	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制	○第一次世界大戦後の国際秩序とヴェルサイユ体制、その後のワシントン体制について考える。	
			23 アジアの民族運動	○トルコやインド、朝鮮半島や中国で新たにどのような動きがあったかを考える。	
			<b>第3回考査</b>		
	12	第6章 経済危機と第二次世界大戦	24 第一次世界大戦後の欧米諸国	○戦間期のヨーロッパの動き、とくにドイツのヴァイマル共和国について考える。 ○1920年代のアメリカ合衆国について考える。	
			25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現	○日本での社会運動の広がり、男性普通選挙と治安維持法制定について考える。 ○協調外交と山東出兵について考える。	
			26 世界恐慌と軍部の台頭	○世界恐慌と日本への影響について考える。 ○世界恐慌がイギリス・アメリカ・ソ連に与えた影響を考える。	
			27 ファシズムの時代	○イタリアやドイツでファシズムが台頭した理由を考える。 ○ドイツとイタリアの対外進出と各国の対応について考える。	
			28 満州事変と軍部の台頭	○満州事変と「満洲国」の成立、日本の孤立化について考える。 ○日本企業のアジア進出と日本の軍部の発言力の高まりについて考える。	
			29 日中戦争と戦時体制	○日中戦争の内容と影響を考える。 ○戦時下の日本社会について考える。	
30 第二次世界大戦の勃発			○第二次世界大戦のはじまりについて考える。 ○アジア太平洋戦争について考える。		
31 第二次世界大戦の終結			○第二次世界大戦の展開をみる。 ○イタリア・ドイツ・日本の敗北について考える。		
32 国際連合の成立と冷戦			○国際連合の成立と組織の内容について考える。 ○冷戦について考える。		
1	第7章 冷戦と脱植民地化	33 日本占領と日本国憲法	○GHQの日本占領方針について考える。 ○GHQの政策と日本国憲法の制定について考える。		
		<b>第4回考査</b>			
		34 朝鮮戦争と日本	○朝鮮戦争など冷戦が対日占領政策に与えた影響を考える。 ○日本の独立回復と日米安保条約について考える。		
2	第8章 多様化する世界	35 植民地の独立	○植民地の独立について考える。 ○第三勢力の台頭について考える。		
		36 米ソ両陣営の動揺	○ベトナム戦争とアメリカ社会との関係を考える。 ○社会主義陣営、特にソ連と中国の動揺を考える。		
3	第9章 グローバル化と現代世界	37 日本の国際社会復帰と高度経済成長	○日本の高度経済成長期を考える。 ○日本がアジアとどのような関係回復を行ったのかを考える。		
		38 石油危機と世界経済	○石油危機と変動相場制実施、アジアの経済成長について考える。 ○新自由主義について考える。		
		39 緊張緩和から冷戦の終息へ	○緊張の緩和と再燃について考える。 ○ソ連の解体と東欧の変革、ドイツ統一について考える。		
3	第9章 グローバル化と現代世界	40 日本の経済大国化	○日本の経済大国化と国際的地位の向上について考える。 ○日本のバブル経済とその崩壊について考える。		
		41 地域紛争と対立	○冷戦後の世界、民族の対立を考える。 ○9.11と戦争の変化について考える。		
			42 国際秩序の変容	○中国・インドの台頭について考える。 ○地域統合の深化やグローバル化への対応について考える。	
			<b>第5回考査</b>		

### 3 評価の観点

知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

### 4 評価の方法

ア (知識・技能) : (思考・判断・表現) : (主体的に学習に取り組む態度) の比率を、原則として 4 : 4 : 2 に設定して評価する。定期考査では、資料をもとに考察する部分を取り入れるなど知識偏重にならないように考慮したい。
イ 評価は定期考査だけでなく、教科書の各項目の冒頭にある「問い」に対する答えや、各項目の最後にある「歴史のひろば」の答えなどを、ノートやワークシート等に記述させる。教科書を利用した記述だけでなく、授業中の他の活動におけるプレゼンテーションやグループワークの結果もノートやワークシート等に記述させるなどして、評価の材料とする。
ウ それぞれの評価は、生徒が「おおむね満足できる」状況に到達できるよう指導する。評定にいたるまでの段階で「努力を要する」状況と判断される場合には、さまざまなアドバイス等によって学習改善を図る。

### 5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

歴史を、単なる事項や事項や人名の暗記ではなく、人間社会でおこる様々なできごとの「つながり」ととらえてください。その際、それがおこった「原因」とその後の「影響」に注目して考えることが、皆さんの今後の人生にも役立ってくると思います。
--